

JENESYS2024 日本・インドネシア多文化共生交流（イスラム青年招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】インドネシアのイスラム青年が、日本の理解と多文化共生への意識増進を目的として、1月28日から2月4日まで日本を訪問しました。一行は東京都と長崎県を訪れ、テーマに関連する施設の視察や講義の聴講、ホームステイを通じて多文化共生、平和構築、宗教観、伝統文化や歴史について学びました。各参加者は日本での学びについて SNS などを通じて広く発信しました。

【参加者】イスラム団体及び国立イスラム大学に所属する大学生・社会人 合計 16 名

【訪問地】東京都 16 名、長崎県 16 名

【日程】

このプログラムは、JENESYS2024 日本・インドネシア 政治・経済・文化交流（若手社会人招へい）、JENESYS2024 日本・インドネシア 若手外交官・地方行政官の政治・文化交流（招へい）と一部合同で実施しました。

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

1月21日（火曜日） 【日本理解講義】「日本の魅力」
講師：千葉大学国際未来教育基幹 教授 織田 雄一 氏

1月21日（火曜日） 【来日前オリエンテーション】

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「事前オリエンテーション」「ホームビジット体験」
「日本文化理解（京都）」「日本語」

■ 招へいプログラム：

1月28日（火曜日） 成田国際空港より入国
【来日時オリエンテーション】
【テーマ関連講義】「日本におけるイスラム」
講師：早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 教授 見市 建 氏
【視察】浅草

1月29日（水曜日） 【視察】東京国立博物館
【テーマ関連視察】東京ジャーミイ・ディヤールナト トルコ文化センター

1月30日（木曜日） 東京都から長崎県へ移動
【表敬訪問】長崎県庁 国際課 課長 貝淵 裕幸 氏

1月31日（金曜日） 【講義】被爆者講話 話者：松本 美都恵 氏
【視察】長崎原爆資料館
【視察】平和公園
【視察】出島
【視察】鎮西大社 諏訪神社

- 【ホストファミリー対面式・ホームステイ】
- 2月1日（土曜日） 【ホームステイ】
- 2月2日（日曜日） 【ホストファミリー歓送会】
- 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
- 2月3日（月曜日） 長崎県から東京都へ移動
- 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
- 2月4日（火曜日） 成田国際空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
2025 年 1 月 21 日【日本理解講義】	2025 年 1 月 21 日【日本理解講義】集合写真

招へいプログラム

	
2025 年 1 月 28 日【テーマ関連講義】 「日本におけるイスラム」	2025 年 1 月 28 日【視察】 浅草
	
2025 年 1 月 29 日【視察】東京国立博物館	2025 年 1 月 29 日【テーマ関連視察】東京ジャーミイ・ディヤナト トルコ文化センター

	
2025 年 1 月 30 日【表敬訪問】長崎県庁	2025 年 1 月 31 日【講義】被爆者講話
	
2025 年 1 月 31 日【視察】平和公園	2025 年 1 月 31 日【視察】鎮西大社 諏訪神社
	
2025 年 2 月 2 日【ホストファミリー歓送会】	2025 年 2 月 3 日【報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 社会人

日本の方の日常生活を通して、日本文化を直に体験することのできたホームステイが一番良かったです。それから、長崎ならではのプログラム、長崎原爆資料館と被爆者の方のお話を伺えたことが良かったですと思います。とても感動的で、平和を守り続けたいと心が動かされました。

◆ 社会人

滞在中多くのプログラムがありましたが、東京国立博物館や原爆資料館などの博物館が最も良かったです。原爆投下、先史時代、そして先端技術に囲まれた現代まで、栄光の時代だけではなく暗い時代も含めて、日本の人々や政府がどれほど歴史を大切に思っているかを感じました。

◆ 大学生

この交流プログラムで一番良かった点は、日本の文化、歴史、人々、習慣を知り、日本の人々と関係を築けたことです。様々な訪問先で多くの日本の人と一緒に交流したり、ホームステイで家族と過ごしたどの瞬間も楽しく、幸せでした。幸せすぎて自分の気持ちをうまく表現することができませんが、確かなことは、どのプログラムもとても有意義で、新しい学びに満ちていたと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

家で過ごす時間がとても充実していました。カードゲームで盛り上がり、子ども達にとっても親切に接してくれました。ラーメンが食べたいというリクエストに応えるため、豚エキスが入っていないものを一緒にスーパーで探すのが大変でしたが、それもまた良い思い出です。たくさんの優しさが世界中に溢れていることを子ども達にも知ってほしいので、また受け入れたいです。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 <p>View Insights Boost post</p> <p>Waseda University: Islam dan Muslim di Jepang</p> <p>Setelah menempuh perjalanan panjang dari Jakarta, kunjungan pertama kami di Tokyo langsung dimulai dengan kuliah inspiratif di Waseda University bersama Prof. Ken Michi.</p> <p>Beliau memaparkan sejarah masuknya Islam di Jepang, perkembangan komunitas Muslim, hingga tantangan dan peluang halal food di Negeri Sakura. Diskusi ini membuka wawasan kami tentang bagaimana Islam berkembang di Jepang, serta bagaimana masyarakat Muslim menjalani kehidupan mereka di tengah budaya yang berbeda.</p> <p>Sebuah pengalaman berharga yang menjadi awal perjalanan kami di Jepang! 🇮🇩 🇯🇵 #jenesys_asean #jenesys_2024 #WasedaUniversity #IslamDiJepang</p>	 <p>Kita tadi ke kantor pemerintahan Prefektur Nagasaki Tau nggak sih bangunannya bagus bangettt, terus pemertanya juga oke, enak banget buat nyalain perat. Abis itu kantor pemerintahan ini ternyata menyediakan banyak fasilitas buat masyarakatnya. Ada ruang baca yang isinya dokumen yang bisa diakses masyarakat, kantin, store. Terus yaa, yang paling menarik di sini ada bagian konsultasi terkait bantuan dan subsidi. Ramazahl bgt buat masyarakat umum.</p> <p>Katakan sesuatu...</p>
<p>2025 年 1 月 28 日（Instagram）</p> <p>社会人</p> <p>早稲田大学：日本におけるイスラム</p> <p>ジャカルタからの長旅を終えた私たちの東京でのプログラムは、早稲田大学での見市建教授のインスピレーションに満ちた講義から幕を開けました。先生は、日本におけるイスラム教伝来の歴史、ムスリムコミュニティの発展、そして、この桜の国におけるハラルフードの課題とチャンスについて説明してくれました。先生とのディスカッショ</p>	<p>2025 年 1 月 30 日（Instagram 等）</p> <p>大学生</p> <p>長崎県庁を表敬訪問してきました。県庁の建物はとても立派で、景色もすばらしく、疲れも吹っ飛びました。それだけではなく、県庁は地域のために多くのサービスを提供しています。一般の人が利用できる資料閲覧コーナーがあり、食堂や売店もありました。そして一番興味深かったのは、支援や助成金に関する県の相談窓口があることです。行政が県民にとっても親切だと思いました。</p>

ンで、イスラム教が日本でどのように発展してきたのか、また、ムスリムコミュニティが異なる文化の中でどのように生活しているのかについて知ることができ、私たちの視野を広げてくれました。日本での旅の始まりに相応しい貴重な体験でした。



2025 年 1 月 31 日 (Instagram)
大学生
長崎の被爆者の一人、松本さんを紹介します。原爆が投下された当時、彼女はまだ 3 歳だったそうです。幼すぎて、はっきりとした記憶はあまりないそうですが、当時のトラウマは 82 歳になる現在までずっと消えず、彼女の心に傷を残しているそうです。松本さんに、そのトラウマをどうやって克服したのかと尋ねたら「世界は平和だからもう大丈夫と自分に言い聞かせています。実際は違っても、他にどうすることもできないので、大丈夫だと思い込むようにしています」と答えてくれました。そして、私たち若い世代へ「これ以上、辛い思いをする犠牲者が出ないように、世界と私たちの周りの平和を守ってください」とメッセージを伝えてくれました。戦争の影響は物質的・身体的なものだけでなく、精神にも及びます。みんなで安全で平和な世界を一緒に作りましょう。



2025 年 2 月 14 日 (在インドネシア日本国大使館の HP)
「JENESYS2024 によるイスラム社会団体の青年及びイスラム大学生・若手研究者の訪日」

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、長崎県 全3グループ発表

グループ A-1



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び：

日本については和食、手工芸品などの伝統的なものから、漫画、アニメ、Jポップなどのポップカルチャーまで、様々な日本文化がインドネシアへ浸透しつつあります。来日してたくさんのことを学びましたが、日本人の礼儀正しさと謙虚さ、家族間の平等性（責任を協力して担う姿）を学びました。

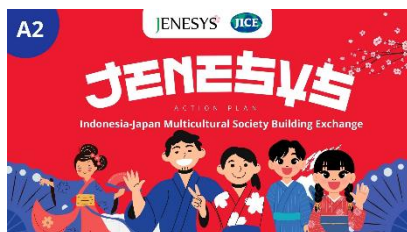
◆ 「多文化共生」の学び：

日本人は他民族の文化や信仰を尊重し、他国に対して優越感を抱いていません。また、社会的格差がなく、都市でも地方でも豊かで尊厳のある生活が保障されています。障がい者に優しい公共設備も整っています。優れた防災システムは、インドネシアも大いに学ぶ必要があります。ただ、日本でハラル対応のレストランを見つけるのは難しく、イスラム外交強化が課題と言えるでしょう。

【アクション・プラン】

- ・グループ全員で今後3か月、学術雑誌や新聞に論文やエッセイを投稿します。
- ・イスラム団体ムハマディアの主導で「災害リスク軽減のためのウェビナー」を3月に開催し、日本の防災専門家も講師になっていただき、防災ボランティアや防災活動団体の能力向上を目指します。
- ・ムハマディア本部は4月または5月に平和の促進と核兵器廃絶を目的とする「ワールドピースフォーラム」を開催します。日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）の方を招き、講演していただきたいと思っています。

グループ A-2



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び：

日本について、和食やアニメなど身近に感じるものが増えてきましたが、来日して多くの興味深いことを日本人の習慣や価値観の中に発見しました。規律正しい、時間を守る、環境を清潔に保つ、どこにいてもエチケットを守る、丁寧に話す、互いを尊重し合う、勤労意欲が高い、歴史を大事にする、などです。

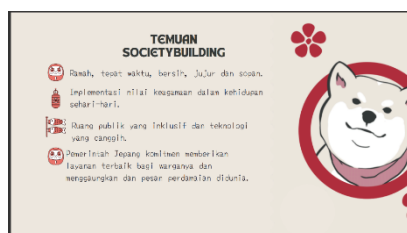
◆ 「多文化共生」の学び：

日本人は宗教的な信仰が厚いとは言えませんが、日本人のふるまいや価値観は宗教者と同様のものがあります。宗教に対する寛容性があり、国内に信者の少ないイスラム教についても礼拝施設の建設を手助けしたり、宗教的調和を維持するための支援を行っています。

【アクション・プラン】

- ・ 帰国後 3 か月間、日本の紹介や文化と教育の交流を目的とし、グループ全員が自身の SNS や職場の TV 局、YouTube 等を通じて情報発信を行います。
- ・ 4 月にはイスラム団体ナフダトゥル・ウラマ本部に在インドネシア日本大使館の方を招いてトークショーを開催する予定です。

グループ A-3



【成果の発表】

◆ 訪日全般の学び：

日本人の規律正しさや日本の先端技術等、話には聞いていましたが、実際にゴミが道端に落ちていないことや、失くした携帯電話やカバンがすぐ見つかったことから、日本の衛生意識や誠実さを実感しました。

◆ 「多文化共生」の学び：

日本の宗教は非常に多様で、日常生活の中で宗教的価値観が存在していることがわかりました。長崎県では透明性の高い行政システムや政府が国民に最高のサービスを提供することに尽力している様子、そして平和のメッセージを世界に対して常に発信していることを知りました。

【アクション・プラン】

帰国後 3 か月間、グループ全員がそれぞれの場所から発信活動をしたいと思います。セミナーと普及活動、ワークショップ、体験を共有するためのセッション、マスメディアへの記事投稿・掲載などです。インドネシアではまだ不足していると感じる「すべての人に優しい公共スペースのコンセプト」「先進技術」「日本人にならった規律正しく、清潔で、礼儀正しい青少年の育成」を目的としています。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）